

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700335		
法人名	株式会社 一条		
事業所名	グループホームほろむい (えがお荘)		
所在地	岩見沢市幌向北2条1丁目611番地127		
自己評価作成日	平成23年8月2日	評価結果市町村受理日	平成23年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175700335&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175700335&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の生活もご家族のご協力と職員の良好なチームケアを基盤に自分らしく安全・安全な生活を提供している。  
また、外出行事にも率先的に出掛け、月1回の温泉ツアーや季節に合わせた外出ツアー・地域での催し物への参加など入居者様の思い出に残る生活を提供している。  
防火体制万全で全館オール電化であり、スプリンクラー・緊急通報装置・火災報知機等の設置、カーテン・絨毯等の防災対策もしている。また、年2回の全体避難訓練も消防職員立会いのもと、日中・夜間を想定して行なっている。  
常勤の看護師を配置して日常的な体調管理や緊急の対応も協力医療機関との連携を取り対応している。  
ご利用者のご家族が宿泊できる部屋を完備した状態に応じて提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR幌向駅から徒歩10分程の田園に点在する住宅の一角に位置する3ユニットの当ホームは、運営法人系列の居宅相談センター、訪問介護、デイサービスを併設し、道を挟んでグループホームほろむい2号館もあります。高齢化が進む幌向地区や岩見沢市の住民を支える介護事業所の拠点として、機能を果たしています。また、運営推進会議が家族や地域住民の方々とのニーズ把握の場となり、多様な意見交換が行われ、運営に活かされています。その他、地域資源の活用も盛んで、ボランティアの導入、中学校の授業の一環として生徒の受け入れや児童会館の児童の訪問、神社祭での子供神輿や子供獅子舞の交流では、利用者が感激して涙ぐんだり、沢山の笑顔に触れたことは、職員の励みになっています。代表者は自ら現場に就き、職員と同じ目線で利用者に寄り添い、職員の意見や要望にも耳を傾け、働きやすい職場作りと研修や資格取得にも力を入れています。介護実習生の受け入れも多く、職員の士気を高めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議・ユニット会議を定期的に行い、理念を基に話し合いをしている。 また、新しい職員の方にもオリエンテーションの中で理念について一人一人が理解できる様説明している。	理念は地域の中で「安心して暮らすこと、自分らしく生きること」を基本に、職員間で定期的に話し合い、共有し、ケアの中で実践するよう努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、草刈りや花壇の手入れ、地域行事等にも率先的に参加している。地域児童館やボランティアの方々の受入れを継続的に行なっています。	代表者は町内会役員も務め、ホームの理解に努めています。草刈り、花壇の植え込み、清掃活動に参加し、祭りには、車いすの場所も確保して頂き、利用者は楽しんでます。中学校、児童会館、ボランティアの受け入れなど、社会資源の活用も盛んです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の代表の方と地域との係わり方や定期的に町内会向けにお便りを地域に回覧しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に根ざしたグループホームのあり方や災害時などの協力体制等を市関係者や町内会の役員の方にもご出席頂き、出された意見を実践しています。	運営推進会議には、町内会役員を始め、市の介護保険課の職員も毎回出席し、地域に根ざしたホームのあり方などで意見交換しています。また、避難訓練にも参加し、多様な意見交換、要望についてホームで検討し、実践に繋げています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録やグループホームのお便りを届けたりと、その都度、運営上の疑問点や問題点などを話をさせていただくと共に電話などで連絡を取り合い市との繋がりに努めている。	市の介護保険課には、運営推進会議の議事録やホーム便りを届けるとともに、ホームの運営上の相談を行い、アドバイスを頂きながら連携を図っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム長会議・ユニット会議で随時身体拘束を行わないケアを話し合い、全職員が身体拘束しないケアをマニュアルを基にし話し合い、理解したうえで実行している。	職員は身体拘束防止について、マニュアルや「禁止の対象となる具体的な行為」について、定例会議で話し合い、周知し、拘束のないケアに取り組んでいます。玄関は日中解放し夜間のみ施錠をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、ホーム長会議・ユニット会議等で随時話し合いをしている。、常日頃から虐待行為につながるような、口答ではあります周知している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在発生はしていませんが、介護支援専門員を中心に内部研修の機会をホーム長会議やユニット会議に設け、職員全員に理解が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を掛け解りやすく説明し、疑問点を話し合いご利用者やご家族に理解・納得して頂き、署名・捺印を頂いている。その後の疑問点について随時対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より、利用者や家族等と職員が気兼ねなく話せ、直接、意見・不満・苦情を伝えられる様な関係作りを心掛けている。また、伝えられた内容を検討・改善策を話し合い反映させている。	利用者、家族には、気軽に言いたいことを言って頂けるよう、雰囲気作りに努めています。遠方の家族には、電話や便りで利用者の生活ぶりや身体状況を伝え、意見や要望も、その都度受けています。出された意見や要望、苦情は、職員間で検討し運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より、職員とのコミュニケーションをとり気軽に話せる環境を作っています。ホーム長会議やユニット会議にて意見を頂き、現場で反映させている。	代表者や管理者は、職員の意見や要望、アイデアなどを日常的に話せる環境を作っています。出された意見はその場で解決したり、会議で話し合い、運営に反映しています。職員の研修や資格取得にもシフトを柔軟に変え、経済的な支援もしながら、働きやすい職場環境を提供しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者が管理者や職員個々のシフト希望を基に作成を行っている。また、随時より働きやすい環境作りを話し合い改善できる様心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修・講習の情報があれば、随時、受講しています。そこで受講した内容を各ユニットにて報告会を兼ねてユニット会議内で研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に職員が参加する事により、外部事業者との情報交換や交流を行なっている。営業を兼ねて定期的に他事業所に伺い交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフは常に利用者の会話・表情等から困っている事などをキャッチしている。 又、担当制にし関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の来荘時には、状況報告を行ない、いつでも話せる雰囲気づくりに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人がどうしたら安心した生活が送れるか、職員間で話し合い、ご家族の意向も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安全に出来る範囲の中で、ご利用者様に家事の役割を持って頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を、御家族に報告、または御家族の思いをご本人にも伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけの面会ではなく、知人等の面会も御家族の許可を得て対応している。 馴染みの場所もご家族の協力により行かれています。	利用者の知人の面会には、ゆっくり寛いで頂いています。また、家族の承諾を得て自宅を見に行ったり、馴染みの美容室や商店での買い物等、これまで利用者を支えてきた友人、知人、家族との関係や生活上の習慣を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話がスムーズに出来るよう、それぞれの座席の配慮や職員も間に入り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	街で会った時など、挨拶をしてホームの近況や利用者・家族の近況等を話すなどして、これまでの関係を大切にしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向の把握をし希望に添えるよう努力し、また、ご家族様と連携を取りより近づける様にしている。	利用者のその時々々の状況に寄り添い、丁寧にアプローチしながら、要望の把握に努めています。言葉に出すことの出来ない利用者でも、表情や仕草から利用者本位に検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ全員がご本人・ご家族様からの情報は把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で連携を取り、入居者様の体調の変化に気付けるよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で話し合い、ご本人がより自分らしく暮らせる様な介護計画を作成している。	担当職員が日々のケアの中で、評価やアセスメント、気づきを纏め、これらを基に計画作成者が、利用者、家族の思いや意見を反映させ、利用者本位の介護計画を作り上げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し暮らしの様子・行動・訴え等を記録し、情報の共有をしている。また、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況・希望により、居室の環境整備。送迎・通院など必要な支援に努め、また地域の方々からの介護相談にも対応し、その他サービスとの連携を強めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会とのかかわりにより、各種行事への参加を通じて、地域の方々との交流をし、散歩等で気軽に挨拶が出来る関係が出来ている。また避難訓練等にも地域の方の参加・協力が出来ると体制作りをしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診送迎を行い、入居した後も関係を継続している。また、定期的な往診を受け入れている。	以前からのかかりつけ医を継続し、受診先の希望に応じて職員が送迎し、家族との情報の共有を図っています。協力医は、2週間に1度の往診の他、歯科については、利用者が希望する医院に同行しています。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤している看護師と連携して対応している。また、看護師・介護支援専門員がかかりつけ医と連携を受診・往診をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態を把握する為、直接の面会やご家族・医療機関への状態の確認を行なっている。退院間近のムンテラに参加し、受入れ体制の確認を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者・計画作成担当者より、ご家族様が来荘された際やTELにて、随時ご利用者の状態変化を伝えていく。また、重度化や終末期に係わる状態変化については、ご家族・主治医・施設職員で話し合い、今後の方向性や対応方法を確認して行なう。	利用開始時には、家族が望む終末期のあり方を確認していますが、状態変化時には、関係者と話し合い、対応について確認し、共有しています。また、看護師を交え終末期のケアについて学習しながら、体制を整えています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員の指導の下、応急手当やAEDの使用方法などを受けているが全員ではない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署職員立会いの下、夜間を想定した火災避難訓練を実施し、反省点をホーム長会議・ユニット会議で報告し、今後の避難訓練に活かしている。また、次回から町内会の皆様の参加も予定しています。	避難訓練は、運営推進会議の参加者と共に昼夜を想定し、定期的実施しています。参加者には具体的な支援について説明し、協力を得ています。参加者から寄せられた意見、要望は、実現に向けて取り組み、備蓄品についても検討中です。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員がご利用者のプライバシーに配慮し、人格を尊重した声掛けをしている。また、個人の写真など居室内に掲示する対応をしている。	職員は、利用者一人ひとりに合わせた声掛けや対応を行い、誇りやプライバシーを損ねない対応について、会議などで事例を取り上げ学習し、実践に努めています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様一人ひとりを把握し、ご本人様が理解できる声掛けと共に決定して頂き、ご本人様の意思に添うよう努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活リズムは決まっていますが、強制せず希望や体調に合わせて過ごして頂けるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容で希望に添った散髪をして頂いている。男性は髭剃り、女性はシャンプー後の髪のセットなど希望に合わせて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が着落いて食事が楽しめるテーブル配置を行っています。 また、個々の体調や嚥下能力に合わせて食事の提供方法を変えている。	食事は栄養士によって季節感のあるバランスの良い、高齢者にふさわしい、献立を提供しています。時には菜園の収穫物や山菜の頂き物も調理され、利用者の関心を引いています。また、屋外での焼き肉や外食などで、利用者の楽しみに繋げています。	職員は、利用者と食卓を共にしていませんので、会話をしたり美味しいものを共有しながら、家庭的な雰囲気作りが求められます。また、職員も椅子に座るなどして、利用者と同じ目線で、さり気ない支援を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れた食事を提供している。 個々の食事内容・水分摂取量は記録し全員が把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食お茶を提供している。歯磨き・うがいの声掛けを行い確認している。 自力で困難な方には介助させて頂いています。 義歯洗浄は夜間に行い消毒を毎日しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の表情・行動・水分量を把握して、定期的に声掛けをしてトイレ誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄を心掛けています。	利用者の水分摂取状況や排泄の習慣を把握し、利用者の身体状況に応じた、トイレでの排泄を心がけています。夜間おむつ対応でも、日中は布下着とパット類を使用し、失敗を減らすよう、さり気ない誘導支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	摂取可能の方には毎朝ヤクルトを提供している。 食物繊維を含んだ食品での食事を提供している。また、適度な歩行・体操を行ない予防と対応に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には1週間に2回の入浴ですが、ご利用者様からの希望があれば都度対応しています。 入浴中は昔話をしたり、歌を歌ったりと楽しく入浴をして頂いています。	入浴は生活の中で楽しみの一つになっていますが、利用者によっては、衣服の着脱には、羞恥心や恐怖心を持つことを職員は良く理解し、入浴が楽しみに繋がるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活習慣を考慮しながら、安心して休息できる様、環境づくりを心掛け、入眠傾向が強い場合には、入床をお勧めしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を参考に服薬内容・使用方法についても把握している。 誤訳のない様、セット確認を行い、服薬の前には日付・名前を確認した上で服用、その後変わりがないか観察を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活習慣を考慮しながら、ご利用者様にあった役割を考え提供しています。花の苗植えや水やり、又、皆様で歌を歌ったり、ゲームをしたりと楽しく過ごされています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の体調や天候に応じて、散歩や日光浴などの外出する機会を作り楽しんで頂いている。ご家族様にも協力して頂き、ご利用者様の希望を取り入れ出掛けられるよう支援している。	散歩や買い物、テラスでの日光浴、菜園などで外気に触れています。また、利用者や家族と相談して、バラ園見学、イチゴ狩り、温泉ツアー、地域の祭り、盆踊り、花火大会など、普段行けない場所へも、家族や地域の方々の協力で外出機会を多くしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族様のご了承のもと施設管理となっておりますが、全員ではありませんが数名のご利用者様は自己管理をされており、お買い物行事の際には、買い物を楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望がある場合には、間違い電話を掛けない様、職員が番号を押し、居室内にて話ができる様、プライバシーにも配慮しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダ付近に食卓テーブルを配置し、食事時間は外の風景を楽しみながら出来るよう工夫している。季節感を採り入れた飾り付けを、ご利用者様と一緒に作り飾っている。	共用空間の台所や事務所の位置からは、利用者の居室が見え、見守りや支援がし易くなっています。テーブルを囲んで、ゆったりとしたソファの前にテレビが置かれ、また、利用者の作品などから、家庭的な雰囲気になっています。床暖房と冷房、オール電化で安全に過ごして頂き、空気清浄器で室内の乾燥や空気よどみもなく、快適な環境となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のご利用者様が快適に過ごして頂けるように、日常生活の状態の把握に努め、居間・食卓テーブル・椅子の配置をしている。変化があるごとに職員間で話し合い配置換えをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の状態に応じ危険性を考慮しながら、ご本人・ご家族と相談・了承を得ながら、随時、お部屋の模様替えを行なっている。	居室にはロッカー、防災カーテンが備え付けられています。利用者の使い慣れた椅子や家具も置かれ、装飾品や家族の写真、利用者の作品などで、自分らしい居室として落ち着いて過ごしています。身体状況に応じて、利用者、家族と相談しながら模様替えも行い、安全に過ごせるように努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様に自立した生活をして頂ける様、トイレ・浴室・居室などには手作りの表札を取り付け、玄関内に椅子を設置し、靴の履きかえ等、出来る限り安全に自立して行なえるように工夫をしている。		